

特集

地域の力で防災を

自主防災でまちを守る



災害による被害を最小限に抑えるには、「自分の身は自分で守る」という『自助』の精神と、「自分たちの住んでいる地域は自分たちで守る」という『共助』の精神が非常に重要です。平成30年7月豪雨の際は、自主防災組織や民生委員、福祉委員、消防団などが率先して安否確認や避難所設営にあたるなど、地域による自主防災が大きな役割を果たしました。今回は巨瀬町の取り組みなどを例に、自主防災の活動について紹介します。

☎ 総務課 (21) 0209

各地域で結成

「自主防災組織」

自主防災組織とは、防災活動を自主的かつ組織的に行うために、行政区などを単位として結成する団体をいいます。

大規模災害の直後は交通網や通信網などのライフラインが混乱し、行政による救出や支援が行き届かない場合があります。そのため、消防や警察、自衛隊などが到着する前に地域の皆さんが協力して避難誘導や安全確認、救助活動などを行うことが大切です。その役割を担うのが自主防災組織です。

市では、17団体(平成30年9月末現在)が自主防災組織を結成しているほか、各地域で防災活動に取り組んでいる団体もあります。それぞれの団体は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という理念のもとに活動をしています。



自主防災組織の活動

平常時の活動

地域内の安全点検

(見守り、連絡体制)

- 危険箇所の確認
- 消火器、ロープ、スコップなど必要な備品の整備
- 防災知識の普及や啓発

- 講習会の開催
- 行政への相談
- 防災訓練の実施
- 避難誘導訓練
- 初期消火訓練
- 応急救護訓練
- 救出訓練
- 情報収集伝達訓練
- 給食給水訓練



災害時の活動

- 情報収集伝達活動
- 初期消火活動
- 救護救出活動
- 避難誘導活動
- 給食給水活動



自主防災組織の活動を支援しています

対象事業

- ① 自主防災組織新規設置補助：新しく組織を設置したとき
- ② 防災訓練等活動補助：防災情報の伝達や避難誘導など災害を想定した訓練、地域内の点検や対策などの活動
- ③ 防災資機材整備補助：地域内の一時的な避難を想定した備蓄、応急的な災害対策に要する資機材の購入

補助金額(上限)

- 地域コミュニティなどの集合体で概ね50世帯以上の自主防災組織
- ① 自主防災組織新規設置：10万円
- ② 防災訓練等活動：3万円 (防災士の資格を取得した場合は受講料などを加算)
- ③ 防災資機材整備：10万円(2回目以降半額)
- 町内会などの単位で20世帯以上の自主防災組織
- ① 自主防災組織新規設置：3万円
- ② 防災訓練等活動：1万円
- ③ 防災資機材整備：5万円(2回目以降半額)

台風24号が市内を襲う

9月30日に台風24号が接近し、市内に被害をもたらしました。河川の増水により国道180号や313号などが通行止め、高倉町田井(肉谷地区)では道路に土砂が流れ込み通行できなくなりました。

当日は集会所などへ自主避難した人も含め、市内19カ所の避難所に午後9時時点で最大183人が避難しました。

また、水道施設の取水井に濁りが発生し、津川町八川や巨瀬町では10月6日まで断水となりました。災害はいつ起こるか分かりませんが、自分の身を守るためにも、今後も気象情報などに注意して早めの行動をお願いします。



冠水した国道180号



土砂が溜まった道路